**令和6年度第1回理事会議事録**

**令和6年4月23日（対面）　医学部管理棟4階第1会議室**

全理事66名中、参加11名、委任状31名、計42名の参加があった。理事の過半数（34名）以上の参加により理事会が成立した。

1. **令和5年度決算承認**

資料として、収支計算報告書、貸借対照表、財産目録、固定資産台帳、監査報告書が提示され、収支計算報告書に沿って出口事業局長から令和5年度決算の収支が報告された。会費収入の減少に加え、昨年度は研究助成金の受賞者が2件となったため全体の収支は赤字となったが、それ以外の項目に関しては多少の過不足がある程度で問題はないとされ、参加の全理事により、令和5年度決算が承認された。

1. **令和6年度予算案審議・決定**

令和6年度の予算案が出口事業局長から説明された。事業活動収入については、おおむね昨年とほぼ同じとする。昨年は会費収入が若干少なかったので今年度は増えるよう努力する。事業活動支出については、おおむね昨年を踏襲する。その中で国外留学助成金は、コロナ明けの留学増加に伴い申請が増えることが予想される。また総会が開催されるため、総会費を計上している。学会助成金は6月末を申請締切とする。新型コロナウイルス対策支援事業費、緊急対策事業費は今回は計上しない。管理費支出も昨年とほぼ同じように計上し、最終的には収入と支出がほぼ同じとなる見込みであることが説明された。

星川洋一先生から、地域連携推進事業費の子宮頸がん予防イベントへの後援について説明があり、意義のある支援であることが確認された。

以上の令和6年度予算について、参加の全理事により承認された。

**3.令和6年度第1回国外留学助成金審査・決定**

　令和6年度第1回国外留学助成金の申請は、城下郊平先生（平成25年卒）、大庭聖也先生（平成27年）の2件であり、西内学術局長から1次審査を経て問題ないことが報告された。これを受けて理事会による2次審査が行われ、1件の限度額である250,000円満額が申請者2名にそれぞれ交付されることが決定した。

**4.医学部開講50周年記念特定基金への支援金拠出について**

西山医学部長から、医学部再開発収支のシミュレーションを資料として説明が行われた。「再開発に14億7600万円が6年間で必要となる。さらに建築費、資材費の高騰により、当初予算よりも支出が増加する見込みである。工期は第1期～第6期にわたるが、本年（2024年）第Ⅱ期は新棟の建設が開始され、トータルで4億6000万円の支払いがすぐに必要となる。これらの支出を賄うため、医学部開講50周年基金、研究経費からの拠出を始め、文部科学省、香川県からの補助金など外部資金からもできるだけ費用を捻出するため様々に努力しているところである。しかしそれでも不足する1億1500万円は寄附を募りたい。4月に入り本日までの22日間に、600万円の寄附をいただいている。これが来月以降も続くと期待して年間7000万円を見込むが、それでもまだ足りない状況である。

再開発には建物の建設のみならず、例えば解剖台についても、清浄機能のついた新しい解剖台の購入で7000万円が必要であり、そういった設備や機器の費用も含まれている。

このような状況であり、同窓会の先生方に協力いただき寄附金を募りたく、讃樹會にも寄附金をお願いさせていただいている次第です。」

これに対し、平川会長から以下の説明があった。「三木前医学部長、西山現医学部長から、個人の厚意による寄附とは別に、讃樹會として寄附をお願いされ、再開発についての説明も受けている」「開学以来40年が経過し、母校も古くなり、今回は本当に大きなイノベーションであるため、讃樹會としても協力したいと思う。現在、同窓会館を敷地内に建設する目的で毎年積立ててきた基金が1600万円ある。執行部では、この積立のうちの1000万円を再開発へ寄附し、残りの600万円は今後、緊急に支援が必要となる場合のために留保するという意見である。

今年から図書館前の中庭に建設が始まる新棟は、1階に讃樹會事務局が移転し、2階には学生や卒業生がくつろぎ交流できる多目的ホールが作られる予定である。これは、本来の同窓会館建設のための積立が生かせる機会であると思われる。大学との話し合いが必要だが、例えばそのホールに讃樹會の名前を付けることになるかもしれない。」

「さらに、讃樹會としての寄附以上に、卒業生がそれぞれ寄附をしていただくのが肝心だと考えている。どうしたら卒業生の行動につながるかを、大学と一緒に理事会でも考えていっていただきたいと思う。」

讃樹會として再開発に1000万円の寄附を行うことについて、理事から賛同の拍手があり決定した。総会でのこの件についての議事の扱いは、大西理事長と平川会長の間で決めることとなった。

**5.その他**

**◆河井先生から2点の提案があった。**

①定年制について　1、2、3期生に理事就任をお願いしても、大学とはずっと関わってないなどの理由で断られることが増えている。ここ2～3年で定年となる年代となっており、我々がいることで若い先生方が発言しにくくなることも懸念される。ある一定の年齢で定年制を導入することをここ1、2年の間に考えていくのはどうか。

②母校に残る卒業生を増やすことについて　例えば国外留学助成金は香川大学で育って研究し留学する人を優先するといったような方法を考えて、県外への流出を防ぎ、より多くの卒業生が大学に残るように対策し、今後、同窓会として卒業生のためにできることを考えてたい。

これに対し、大西理事長から、定年制は役職定年も含めて今後議論していきたいということで、執行部会で検討することとなった。

国外留学助成金制度については、既に20年以上前の制度のままであり、例えば金額の半分は香川大学枠にしてもいいかもしれないと、本制度の立案者である西山先生から意見があった。

**◆ホームカミングデー開催について西山医学部長から周知があった。**

今年の医学祭開催時に、卒業生が集まる機会としてホームカミングデーを開催する。学生時代の部活を訪問したり、学生の活動を紹介するなど、企画をいろいろ考えている。また新棟完成後は、卒業生、在校生の集いの場にし、卒業生には1年に一回は香川大学医学部に帰ってきていただくよう、讃樹會とも連携しながら、そういった日を大学として準備して、卒業生の方をお迎えしたいと考えている。

**◆50周年基金について意見が交わされた。**

「もっと宣伝してもいいと思う。」「青写真が見えない。困窮しているのが伝わってこない。1億足りないのと10億足りないのでは困窮さが全く違う。実際にどのくらい足りなくて、どのくらい大学として頑張っているのかということをもう一度説明した方がいい気がする。」「2月の意見交換会で、実際のスライドで大学の傷んでいる箇所を見た。本日のシミュレーションから、このくらい足りないということが分かった。そのように額がはっきり見えている方が寄附しやすい。」「寄附の資料や振込用紙をすぐにどこかに無くしてしまうので、どんどん配布した方がいい。無くしてもすぐに次がくるくらいに。」「各学年の理事からも同級生や知り合いに寄附についての話をして、理事会としても協力していきたい。」

**◆地域医療実習について星川広史先生から協力の呼びかけがあった。**

学生の医療実習の受け入れ先として、県内の病院に協力をお願いしている。複雑なことを指導するのではなく、診察の見学や、血圧を測るなど、そういう機会を持つことが学生にとって非常に大事である。県内の卒業生の先生方に、学生たちの教育の受け入れ先という形で協力いただきたい。

最後に大西理事長から、理事会としては香川大学医学部卒業生を今後も応援していきたいとの言葉があった。